



～事業管理者のあいさつ～



新年明けましておめでとうございます。令和3年の年始に際し、小林市立病院を代表いたしましてごあいさつ申し上げます。

昨年1月より全世界を未曾有の混乱に巻き込み、未だ終息の目途が全く立たない「コロナ禍」に対し、多くの方々が多方面でその対応に御尽力されている姿を、報道等で目にすることが日課となっておよそ1年が経過しました。様々な形で甚大な影響により従来の常識は否定され、まるで社会全体の生活様式の大きな変化を迫られているかの様です。

感染症指定医療機関であります当院の全スタッフも、西諸医師会および関係諸機関の御協力のもと日夜その診療に対処しておりますが、当地域の医療体制堅持が危ぶまれていることは間違いありません。幸い現状では対象入院患者数が許容範囲内で推移し、通常の当院診療体制は維持できていますが、もしその破綻を来す事態となれば、住民の方々の生活へ図りし得ない影響がおよぶことは回避できません。これから春までは熱発患者の増加が予想され、一般外来対応の負担急増に伴い救急医療および入院医療への影響が強く懸念されています。医療資源の乏しい当地の脆弱な医療体制と、救急・入院医療を主務とする当院と西諸医師会の先生方との役割分担を御理解頂き、今後も引き続き各医療機関への適切な受診に御協力をお願いいたします。

さて、昨年も宮崎大学と県立宮崎病院の初期研修医10名がのべ11か月間当院で研修し、また宮崎大学医学部医学科5年生16名が8カ月間にわたり、地域医療研修のため当地にそれぞれ4週間滞在しました。令和3年度はさらに鹿児島大学と鹿児島市立病院からも数名の研修医が来林予定です。多くの若い医師や医学生が当院での研修を希望する様、今後も充実した研修カリキュラム提供を目指し職員一同努力いたします。

本年も引き続き御理解と御支援を賜ります様、宜しくをお願いいたします。

小林市病院事業管理者 坪内 斉志

理 念

「安心、安全で信頼される病院を目指します」

【基本方針】

- ◎ 西諸の中核病院として、地域の医療機関と連携し、高度な医療を提供します
- ◎ 職員一丸となって、迅速な対応とチーム医療で、安全な医療を提供します
- ◎ 誠実かつ真摯（しんし）な姿勢で日々研鑽（けんさん）に努め、信頼される質の高い医療を提供します
- ◎ 自治体病院として、平等で心が通い合い、安心できる快適な療養環境を提供します
- ◎ 患者様と家族の満足を追求し、プライバシーの保護をはじめ患者様の権利を尊重します



小児科紹介



小林市立病院 小児科の中田雅之と申します。私は小児科医となって、19年目となります。

今年は、小児科外来診療の充実を目的に、小児科のスタッフが1名増員されました。その結果、月曜日から木曜日の通常小児科外来では、隔離室で風邪や発熱のある患者さんへの外来診療が可能になりました。引き続きかかりつけ医、各専門医療施設と連携していききたいと思います。

更に、今年から、乳幼児期から学童期の発達障害への対応（検査、診断、治療）も開始しております。発達障害の問題点は、大きく2つに分けることができます。第一に、現在の問題（かんしゃく、育てにくいなど）への対応と、第二に将来に向けての発達の促進です。いずれの観点からも乳幼児期の広汎性発達障害は早い時期に療育を開始することが有効であることが分かっております。乳幼児期から育児に困難を感じているご家族の方々からの相談に対応していききたいと思います。乳幼児期に関しては、診断より療育の開始を優先することが必要な場合もあります。療育を開始後も、自宅での患児への対応について引き続き相談していただければ幸いです。

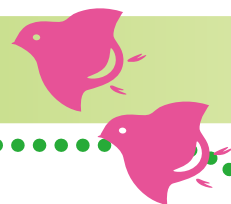
学童期に向けては、広範性発達障害、注意欠陥多動障害に関して、教育機関と連携して、児に適切な教育、自立支援が行えるように診断、治療を行っております。その後の社会との繋がりも考えながら本人、家族と相談していききたいと思います。

当院で対応困難な検査、診断、治療に関しては、ご本人とご家族と相談しながら、専門医療機関と連携して対応を行っております。カウンセリングに関しては臨床心理士の柳田先生に協力していただいております。

また、宮崎大学小児科医師の協力の下、専門的医療についても対応させていただいております。現在は常勤小児科医一人のため皆さんのニーズにこたえられる十分な体制にはいたっておりません。その中で私達ができること、そして患者さんに安全な安心できる医療を提供できるようにひとつずつ成長し努力していききたいと思います。時間はかかると思いますが、小児医療の安全と充実に向けて、みなさまのご理解とご協力をお願いいたします。

小児科医長 中田 雅之

看護部紹介



手術室・中央材料室を紹介します。

ここ数年の手術件数は年間500件程度で推移していましたが、今年度は手術件数が増加する傾向です。その中でも泌尿器科の前立腺や腎尿管の腹腔鏡下での手術が増加しています。平成31年から分娩が再開され、手術室では帝王切開術が行われています。帝王切開術は緊急を要する場合が多く、短時間で受け入れ態勢を整える必要があります。そのためにも器材準備や手順確認など日頃からの備えが必要です。

手術は多職種のチームで行われることから、安全・円滑に手術が進行するように日頃からのコミュニケーション、顔の見える関係づくりが欠かせません。手術室には麻酔や手術に不可欠な多くの医療機器があります。そのため手術室には臨床工学技士が配置されており、腹腔鏡などの手術にも対応できるようになっています。医療機器を直接取り扱う手術室看護師は、取扱方法を理解した上で点検や正しい操作を行い、手術の安全を確保する必要があります。従って、機器の操作や保守管理を行う臨床工学技士は、手術室になくってはならない存在であり、今後も連携・協力がますます重要であると考えています。

手術室看護師長 米丸 博子



臨床栄養室

身体の芯まで冷える季節、みなさんはどのような方法で体調管理をおこなっていますか？ 今回は、汁物や飲み物で身体が温まるメニューを紹介します。

ほっ とな 1 品で心も身体もポカポカに！

知ってお得！減塩効果もある塩こうじ入り具だくさん味噌汁

（材料）2人分

豚もも肉	50g	（味付け）だし汁	400cc
大根	30g	うすくち醤油	小さじ2杯
人参	20g	みりん	大さじ1/2杯
里芋	50g	味噌	大さじ1/2杯
ゴボウ	20g	塩こうじ	小さじ1杯
しいたけ	10g	おろし生姜・小ねぎ	お好みで
こんにゃく	20g	（栄養価）1人分	エネルギー115kcal



（作り方）

たんぱく質 7.2g 塩分 1.8g

1. ゴボウは笹がき、豚肉とその他の野菜は食べやすい大きさに切る。
2. 鍋にサラダ油小さじ1杯を入れ、ゴボウを香りが出るくらい炒める。
3. 豚肉を加え色が変わるまで炒め、だし汁、残りの野菜を加え煮る。
4. 調味料を入れ完成。（塩こうじと味噌の割合は好みで変えられます。）

*塩こうじは、ビタミンBを多く含み、酵素が腸内で栄養素の消化吸収率を高める効果があります。また腸内の善玉菌を増やして胃腸の働きを整え、体の免疫力を高めることで風邪やウイルス感染予防が期待されます。

牛乳が苦手でも 飲みやすい きな粉ドリンク

（材料）

牛乳	150cc
きな粉	大さじ1
砂糖	小さじ2
黒蜜	お好みで

（作り方）

1. きな粉と砂糖はよく混ぜておく。
2. 温めた牛乳に、1のきな粉と砂糖を入れて溶かす。
3. 仕上げにお好みで黒蜜を入れる。

（栄養価）1人分 エネルギー160kcal
たんぱく質 7.9g

*きな粉は食物繊維がたっぷり！身体の不要なものを排出する働きがあります。
アレンジ：砂糖をハチミツに変えたり、すりゴマをプラスするのもおすすめ
（血糖コントロールが必要な方は、砂糖は小さじ1杯にしましょう。）

リハビリテーション室紹介



～リハビリテーションって何？～

みなさんは「リハビリテーション」と聞いて何を想像しますか？ おおよそ9割以上の方々は「運動する」「歩く練習をする」「専用の部屋に行く」など、身体を動かしたり体力づくりや歩行練習等を想像されると思います。専用の施設がその名称になっているので仕方ありませんが、本来の意味とは程遠いものです。

本来は“Rehabilitation（リハビリテーション）”という単語で、最初は“Re”のスペルのから始まり、これは“Recycle（リサイクル）”や“Repeat（繰り返す）”と同じように、「再び」という意味を持ちます。ラテン語の“Habilitation（ハビリテーション）”と合わせて、「復権（再び権利を獲得する）」という意味があります。人は権利によって生きています。「食べる権利」「歩く権利」「車を運転する権利」「仕事をする権利」など、日常で私たちが行っていること全てを権利に置き換えることができます。

病気やケガの治療を行うことで、一時的ではありますがその権利を失うことになります。安静による身体機能の低下（筋力の低下や関節拘縮、麻痺、異常感覚、心肺機能低下など）で、動作（行動）制限が生じます。起きることや立つこと、歩くことなどの制限が生じることで、私たちの生活する権利が奪われてしまいます。

そこで、リハビリテーションの専門職と言われる「理学療法士」「作業療法士」「言語聴覚士」が、それぞれの方法で機能回復のための練習を行います。また、医師や看護師、MSW、栄養士など多職種が協同して、生活するための権利を回復させるのがリハビリテーション医療と言います。



「リハビリテーション＝リハビリ室での運動」ではなく、多方面からのアプローチによって、患者さんの「権利」を回復させる＝「全人間的復権」と捉えていただきたいと思います。

リハビリテーション室長 清水 秀一

連絡先

小林市立病院 地域医療連携室

TEL 0984-23-8225（直通）

FAX 0984-23-8226

Mail k_hosp4@city.kobayashi.lg.jp

スタッフのひとこと

昨年は、新型コロナウイルスの感染拡大に世界中が翻弄され、当たり前だと思っていた日常が一変した年でした。今年の年始は我が家も家族の帰省がなく寂しい元旦を迎え、年の始めにコロナの終息と平穏な日常を願いました。コロナ禍を生き抜く黎明期と捉え遅しく過ごしていきたいと思っています。

地域医療連携室 医療ソーシャルワーカー 鶴 千江美

